

福岡の戦後70年

語り継ぐ、大刀洗平和記念館



大刀洗飛行場に関する貴重な写真や、戦闘機の実機展示のほか、当時の生活の様子がうかがい知れる資料も多数展示

筑前町立 大刀洗平和記念館
朝倉郡筑前町高田2561-1
☎0946-23-1227

☎9:00～17:00 ※入館は16時30分まで 休12月29日～1月3日
料大人(大学生以上)500円、高校生400円、小・中学生300円

戦争に関する資料や映像などを常設で展示する施設「筑前町立大刀洗平和記念館」。平成21年の開館以来、かつて「東洋」とうたわれた陸軍の航空拠点・大刀洗飛行場があったこの地で、歴史を学び平和の大切さを伝える役割を担っています。また、実際に戦争を体験した「語り部」たちの生の声を通して、当時の記憶を伝える活動にも力を入れています。

語り部の一人、伊藤月路(つきみち)さんは、昭和10年生まれ、80歳。実家は、大刀洗飛行場に近い商店街にある理髪店でした。春になると桜並木が見事な通りは、夕方ともなれば多くの兵隊で活気に満ちていたといひます。理髪店も盛況で、伊藤さんは隊員たちから「月ちゃん」と呼ばれ、かわいがられていました。

戦争末期、特攻隊が編成された頃の話です。ある時、4、5人の隊員がウイスキーやお菓子を手に店を訪れました。「月ちゃん、明日は片道切符で行くんよ」と言われたものの、その言葉の意味は分かりませんでした。しかし、涙をこらえる兵隊さんと一緒に歌を歌ったことは、70年たった今でも鮮明に覚えています。

その後、理髪店は戦争で焼けてしまったそうですが、「父が店の前で撮った家族写真を防空壕から持ち出してくれていました。この写真があるから、戦争を知らない世代の方々に当時のエピソードをお話することが出来ます」と伊藤さん。すてきな笑顔を絶やさずに、これからも平和の尊さを訴える活動は続きます。



伊藤さん家族の写真。当時としてはハイカラな理髪店の前で(上)

本誌取材の合間にも、修学旅行で訪れた学生たちに自ら声を掛ける伊藤さん(下)



「頼田の森」の悲劇

昭和20年3月27日午前10時ごろ、終業式が行われていた立石国民学校(※)の講堂で、5年生だった金堀重輝(かなぐり かつみ)さんが聞いたのは、警戒警報から避難警報へと変わるサイレンでした。B29爆撃機の編隊が豊後水道を北上し、大刀洗飛行場方面へ向かっているとの情報が入り、すぐに集団下校が始まりました。

頼田の森からすぐ近くにある自宅の防空壕へ逃げ込む直前、金堀

さんはキラキラと光るB29から、鉛筆の芯のような爆弾がバラバラと落ちていくのを目撃します。ドーンという凄まじい爆音と衝撃。頼田の森に落とされた爆弾によって、ここへ逃げ込んだ31人の子どもたちが命を落としました。

「辺り一面が血の海。着物も髪の毛も剥がれ、言葉にできない光景を、昨日の事のように思い出します」。84歳になった今も、当時の体験を戦争を知らない世代へと語り継ぐことが自分の使命と、金堀さんは語気を強めます。



直方市「雲心寺」にある代替梵鐘。裏には「皇紀二千六百二年(昭和17年)」と記されている

うん しん じ
雲心寺
直方市山部560
☎0949-22-2228

戦争を伝える、鳴らない鐘

昭和16年、鉄や銅など、銃や砲弾に使う物資の不足を補うため、

「金属類回収令」が出されました。各家庭で使われる鍋や貴金属はも

ちろん、お寺の梵鐘(ぼんしょう)までもが供出され、鐘のなくなったお寺には、コンクリートや花こう岩製の梵鐘が代わりに置かれました。直方市にある雲心寺には、音が鳴らない代替梵鐘が現存しており、当時の記憶を今に伝えています。

当時を知るシイの木に思いをはせる金堀さん



頼田の森平和花園
朝倉市頼田589-4
※駐車場はありませんのでご注意ください
☎0946-22-8930 (朝倉青年会議所)

※現・朝倉市立立石小学校

▶今夏の関連展示会情報

▶戦後70年企画展「物言わぬ証言者」遺物が語る沖縄戦

筑前町立 大刀洗平和記念館

開催中～7月15日(水)
9時～17時 ※入館は16時30分まで
料大人(大学生以上)500円、高校生400円、小中生300円

▶戦後70周年記念講演

アクロス福岡イベントホール

戦争体験者による講演(予定)など

8月15日(土)14時～16時40分(予定)
料入場無料

▶福岡県戦時資料展

●(福岡会場)アクロス福岡交流ギャラリー
8月11日(火)～16日(日)9時～17時

●(北九州会場)ウェルとばた交流プラザ
8月4日(火)～9日(日)
9時～17時(最終日は15時まで)
料入場無料